

1 蘇原南保育園の保育

◎保育理念

児童福祉法の精神に基づき、『子どもたちの最善の利益』保証するために保護者や地域との連携

を基に、子どもの人権と主体性を尊重し、生き生きとした保育者の豊かな人間性の陶冶と専門的な

知識の向上に努め、子育て支援を積極的に行う。

◎保育目標

- | | |
|--------|--------------------|
| ・保育目標 | すこやか ほがらか おもいやり |
| ・養護の目標 | 生命の保持と情緒の安定を図る |
| ・教育の目標 | 友達と仲良く意欲的に遊べる子 学ぶ子 |

◎保育方針

保育目標を具体的に実践するために＜元気な子 仲良く遊ぶ子 心の豊かな子 自分で見つけ創り出す子 あいさつのできる子＞の5項目を揚げ、安心できる保育環境のもと、子どもの主体性を尊重した保育を大切にしていける。

2 本年度の重点事業の取り組み結果

① 保育の質の向上

キャリアアップ研修、岐阜県保育研究協議会による階層別・テーマ別・ブロック別研修、各務原市による保育士研修会（講演・公開保育等）、法人研修会（テーマ別研修・公開保育・合同研究発表等）、月一回外部講師を招いて「気になる子への配慮」をテーマに園内研修をしている。午前中に全クラスを参観、午後それを踏まえてケース会議を行います。日々の保育の課題や問題行動に対しての知識や対応など職員で問題解決を図るための意見交換、職員同士の共有する場にもなっています。

このように内部・外部を問わず積極的に職員全員が研修できる体制をとれるように工夫しています。成果として、令和5年度から取り組んだ園内研究を岐阜県保育研究大会にて発表しました。（7/1～31 オンデマインド配信）研究テーマとして、「異年齢保育を通して子どもの成長と気になる子への対応に向けて」（第2分科会：配慮を必要とする子どもや家庭への支援に向けて）です。

② 保育を豊かにするための取組

* 異年齢保育、年齢を超えた関わりを通して「非認知能力」を意識した保育を展開

日々の保育・生活に年齢を超えた活動を行っています。0歳児から5歳児まで年齢を超えた活動、大きな集団・家族としての活動として、朝礼時には5歳児は1歳児をサポート、以上児の給食時には3クラスを分割して年齢を超えた食事体制、0歳と3歳・1歳と5歳・2歳と4歳と年齢を設定した保育活動交流、未満児・以上児同士の活動など様々な活動を工夫し展開することで多くの経験、ダイナミックの活動を展開しています。

* 非認知能力＜おもいやり＞の心の育ち

保育目標の一つとして＜おもいやり＞の心を育む活動を心がけています。以上児3クラスを対象にテーマ＜心の花を咲かせよう＞を遊戲室に飾りました。一人ひとりの花びら・月ごとの色で、4月から翌年3月までの1年間の子どもの成長を追っています。卒園・進級する3月には満開の心の木が出来上がりました。その他に、毎日挨拶をする

ことを始めとする子どもたち同士の関わりの中で、“相手を思いやる”ことをまず職員が模範になるように心がけています。

③ 遊びへの意欲を高める屋外（園庭）・屋内環境の整備

令和7年度から新たに認定こどもえんとしての機能を充実するために遊具や保育室の環境整備を図り、子どもたちの安全・安心できる場を設けました。

＊園舎の東側に未満児用（0歳児～2歳児）の遊び広場を設置（4月）

「赤い羽根募金」の制度を利用し大型遊具や小型遊具を設置し、未満児向け遊具の充実や子どもの安全な遊び場を確保しました。

＊2階ベランダの有効利用（5月）

2階のテラスを遊び広場として使えるように工夫しました。プールだけではなく、かけっこ・ドッチボール

ル・ラダー・ケンケンパーなどの遊びもできるようにマークや線などを描き、少しの間でも遊びを

楽しんでいます。以上児の子どもたちだけではなく、未満児の子どもたちとの異年齢交流の場、子

どもフェスティバルや夏の水遊びの場としても有効に利用しています。

＊2階の保育室（3歳児～5歳児）の拡張修繕（8月）

保育室南面の廊下側の壁を撤去し、子どもたちにとって活動しやすい保育室にしました。修繕したことで、南側からの日差しが入り保育室が広く明るくなりました。また、南面に雨よけの屋根も設置したことで、テラスで遊び用の靴も置きすぐに活動できるようにしました。

コロナ禍の3年間、3蜜による日々の生活は子どもの成長にとり多くの問題や課題があると言われ

ています。体力低下や運動量の減少、人との関わりの希薄化、園生活の活動内容の縮小化など

外遊びの減少や様々な経験不足からくる要因が挙げられています。このような状況を解消すべき

活動を日々行う、今後も継続していく事が求められていると思います。

2024年度9月及び2月に職員（保育士・調理員）対象に自己評価を実施し、その結果をグラフ化し、園運営、保育活動の総括や次年度に向けた改善課題としてまとめました。



3 本年度統括と次年度以降の課題

① 保育の内容

蘇原南保育園が子ども・保護者にとって「安心・安全・安定」した保育園であるために、人的・物的環境づくりに心がけてきました。日々の保育を大切に積み上げる、年齢を問わず様々な経験を積み上げることで、子どもたちの成長や「最善の利益を保証する」ことが今後も課題となると考えます。

② 保護者への対応

6月の運動会や12月の発表会の行事において、制限があるものの保護者に直接参観して頂き、子どもとともに保護者にも喜んで頂けました。また、6月から7月にかけて、個別に懇談会を設け、子どもの日ごろの保育園の様子や家庭での困り感などを聴く機会とし情報を共有することもできました。9月の幼年体育の保育参加、3月の保育参観、誕生日会参加と併せての試食会を通して子どもの日々の様子を観ていただく機会も設け、できるかぎり保護者との連携を図る活動を計画的に取り入れることが出来ました。今後、保護者との信頼関係を築き上げていくために、日々の子どもの様子を伝える工夫、登園・降園時の言葉かけや連携などがより充実することも保育の質の向上と併せて大切と考えます。